

令和5年度 学校評価報告書（目標設定 実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価（3月11日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①科学技術教育に関する感性を醸成させ、幅広い教養・技能・技術を身につけさせる。	①産業界や大学等と連携し、各系の繋がりを深め、生徒の関心・意欲を高める事業を拡充し資格取得等を促進する。	①外部講師を招き、出前授業を実施する。 ①生徒の資格に対しての情報提供を行い、資格取得の推進を行う。	①出前授業アンケートを行い、生徒の関心や興味が高められたかで判断する。 ①生徒の受験者数及び、合格者数で判断する。	計算技術検定（6月） 3級 62.9% 4級 77.4% 技能検定3級5人 第二種電気工事士上期7人 第一種電気工事士筆記2人	試験の合格率については、受験者数が減少していることも含め、生徒の能力と指導体制によるので、合格率を数値目標にするのは、難しい。	①この数年、企業側は高校生の採用枠を拡大している。その際、資格保有者は採用内定に有利に働いている。今後も資格試験の拡充をお願いしたい。	①情報技術検定3級（1月） 19名合格（52.7%） 合格者数の数が少ない。生徒自身のモチベーションが低い。	①検定や資格の有用性を納得させ、自ら学習する動機付けをさせたい。
		②生徒一人ひとりに見合った指導を工夫し、基礎学力の定着と学力向上を図る。	②一人一台端末の導入に合わせICT機器を効果的に活用し、生徒自らが主体的に学べる環境を整え、学習効果の向上を図る。	②Chromebook等を授業内で積極的に活用し、生徒自らが主体的に学べる環境を整え、学習効果の向上を図る。	②Chromebook等を用いた授業の実施状況を生徒・職員にアンケート調査を行い、判断する。	②環境化学系（2年）で出前授業継続中である。	②本校ではChromebookを購入できない家庭も多く、学校側が貸し出している状況がある。加えて、PCの購入価格の上昇が問題である。	②平塚市内の小中学校はすべて公費でタブレット端末を活用する授業を展開している。高校では、PCを購入できない家庭があるためスマホを授業で活用しているようだが、通信環境などのインフラの整備を含め、学校運営協議会からの提言等を活用してほしい。	②富士フィルム和光ケミカル株式会社社員による出前授業を実施（環境化学系2年生対象） 内容として、専門科目の学習組意欲を高めることを中心に講義を行った。 ②（財）環境政策対話研究所の職員による継続的な出前授業を実施。内容として、脱炭素の問題を自分事ととらえ、意識を高める講義・フィールドワークを行った。	②関連企業の出前授業については、充実をさせてていきたい。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①基本的な生活習慣や社会の行動規範等の一般常識を身につけた持った人材を育成する。	①基本的生活習慣の確立を基本に、社会の模範となるような行動を促す。特に自転車乗車時の法規遵守を重視し交通事故を未然に防ぐ。	①きめ細かな校内外指導することで、基本的生活習慣を身に着けさせる。また交通法規を理解させ、通学時の自転車事故が「0」であったか。	①基本的生活習慣については、全職員の指導の下、改善しつつある。自転車事故については、報告のあるものは2件である。	①自転車事故については、引き続き登下校指導や関連機関と連携し、事故防止に努める。	①平塚市内は自転車の利用率が大変高い。引き続き、通学時等における自転車のマナーについてご指導いただきたい。	①基本的習慣については全職員の指導により、前回評価時と比較し改善された。自転車については、一部の生徒であるが交通法規が遵守されておらず、近隣住民より苦情が入っている。事故については自損事故が増えた。	①自転車については、教職員だけでなく警察関係と協力を得る必要がある。	
		②教育相談体制を充実させ、生徒一人ひとりの個に応じた支援体制を構築する。	②より効果的な支援が行えるよう新たな相談体制を構築し、支援体制の拡充を図る。	②教育相談コーディネーターを中心SC、SSWと連携し相談体制を整え、様々な生徒の支援ができるようにする。	②SC、SSWとの活動は、かながわサポートドックを基本に連携し、問題解決に向けて進めている。	②SC、SSW及びS S Wの活用状況と効果は検証されているだろうか。支援の必要な生徒が潜在的にいるのではないか。	②SC及びSSWの活用状況と効果は検証されているだろうか。支援の必要な生徒が潜在的にいるのではないか。	②かながわサポートドックを基本にSSW、学年を中心にサポートを行い生徒個別の問題に対しサポートを行った。来年度も継続して進めて行く。	②問題を抱えている生徒の申出を、如何に引き出すことができる工夫する必要がある。	
		③部活動や委員会活動を活性化させ、責任感やコミュニケーション能力などの人間力を育む。	③部活動入部率向上の継続と委員会活動の活性化を図り、学校行事の充実と合わせた活気ある学校づくりを進める。	③部活動オリエンテーション等を通じ、部活動の魅力を発信し加入機会を増やす。また、委員会活動の成果を見えやすくし、関心を持ちやすくする。	③部活動加入率は10月1日現在で50%の加入率とすることができたか。また、委員会の実施については、各委員会で1回は実施されている。	③今年度の活動は順調に行われているので、グループとしての新たな取り組みは行わない。各委員会で主体的に活動するように指導している。	③部活動の成果等を学校のHPに積極的に掲載した方が良い。中学生たちの多くが高校等の情報を学校HPで収集している。効果的な活用方法を模索してほしい。	③今年度は、新入生への部活動紹介を対面で行うことができたこともあってか、1年生の部活動加入率は約54%。1~3年生では、約49%となった。約半数の生徒が部活動に加入しているという結果が出たが、部活動間で加入数に差がある。委員会については、生徒会本部を中心いて、文化祭実行委員会などが活動を行った。	③新入生オリエンテーションでの部活動紹介を対面で行いながら、新入生が部活動に触れる工夫をする。また、本校ホームページでの部活動のページを定期的にアップデートする。委員会については、生徒会本部を中心いて、文化祭実行委員会などが活動を行った。	

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(3月11日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	①生徒自ら進路決定に向き合えるように入学時から段階的に進路指導の充実を図る。	①学校生活の様々な機会を利用した進路指導教育を実践し、社会を背負う人材育成を実現させる。 ②上級学校への進学等を見据えた進路教育を実践する。	①社会人として必要な知識マナーを身に着けることを目指し、進路指導教育の充実を目指す。 進路未決定者を出さないために日ごろ生徒に接する中で進路意識向上をめざす。 ②ハローワークとの連携や雇用状況を見極めながらのきめ細かな就職指導を行なうと共に、進学希望者への支援も含めた教育を行う。	①就職内定率100%は果たせたか。 進路未決定のまま卒業する生徒をゼロに近づける方策を果たしたか。 ②ハローワークや地元企業との連携を深めた就職指導教育を行う。 進学希望者への適切なサポート体制を整える。	①就職内定率は10月6日現在91%、年内には就職希望者は全員内定をもらえると思われる。 ②ハローワークとの連携で面接指導等を行い効果が出ている。進学希望者への総合型選抜対策なども進みつつある。	①内定をもらえた理由について考えていく必要がある。引き続き、生徒が希望する進路実現のためにキャリア教育の指導の充実が課題である。 ②進学に際して、生徒に対して、学費の面に関する指導をしていく必要を感じている。	①資格試験と企業における業務の関連性を連動させると良いのではないか。せっかく資格を取得していても友好活用されていないのがもったいない。 ②経済的理由から上級学校への進学を断念するケースがあると聞く。スカラーシップ等を有効活用したらどうか。	①就職内定率は10月6日現在91%、年内には就職希望者は全員内定をもらえると思われる。 ②ハローワークとの連携で面接指導等を行い効果が出ている。進学希望者への総合型選抜対策なども進みつつある。	①内定に結びつかなかった要因について検討していく必要がある。 ②今年度は成績不振や不登校の生徒が多かったので進路未決定者が例年より多かった。進路意識を高めることによって不登校や成績不振者を出さない指導が必要と思う。
	①工業系専門高校として、ものづくり体験教室を始め、文化祭、学校へ行こう週間等での地域への公開で開かれた学校づくりを進める。 ②保護者や地域社会と協働して開かれた学校づくりをめざす。	①コロナ禍で実施が難しかった小・中学生向けの体験活動を工夫・充実させ魅力あるものにすると共に、WEB等も有効に活用し情報を発信していく。 ②PTAや地域の方と連携を拡充し、教育活動の推進に取り組むと共に、ものづくりなどを通じて地域に貢献する。	①学校体験回数を増やし、より多く参加してもらえるようにする。 ②PTAや地域の方と連携した取り組みの実施とその情報発信を広める。	①学校体験の参加者数が増加したか。 ②連携した事業の実施状況およびそれを踏まえた地域連携部会等の意見。	①学校説明会に参加した人数は、1回目は97組、2回目は74組となった。ものづくり体験等の応募人数はおおむね良好であった。 ②地域の防災拠点として学童の避難訓練を実施した。	①説明会等で本校を訪れた中学生・保護者が成果物を持ち帰るなど、工業高校として魅力をどのようにPRしていくのかの工夫をする必要がある。 ②今後の訓練・花水保育園等の避難訓練の対応	①藤沢工科高校では小学生へ高校生によるスマート教室を開催している。是非、平工でもそのような機会をとらえて工業高校の魅力を発信してほしい。 ②高校生と地元の幼稚園等が連携しながら防災訓練を実施することは大変意義深い。今後も推し進めてほしい。	①学校説明会への中学生の参加人数はのべ243名(97+74+72)となり、望ましい数値とは言えなかった。反面、近隣中学校での学校説明会や出前授業などの反応は良好であった。これより、中学生やその保護者を中心に、工業高校への進学という選択肢を持たせて行くことが必要と考えられる。 ②学童・花水保育園等との避難訓練は実施できた。小中学校との連携を検討したい。	①工業高校の存在を周知する活動を積極的に取り入れ、中学生の目に留まる工夫が必要である。その為に、出前授業や本校生徒の出身中学校への進路報告など、近隣中学校へ足を運ぶ活動が求められる。 ②連携先と連絡を密にとり、行事予定のすり合わせ等を行う。
5 学校管理 学校運営	①職員の働き方改革を推進し、活気に満ちた職場環境を創造する。 ②防災意識を高め、防災力を上げる。地域の防災拠点としての充実を図る。	①Teams等のICT活用をさらに進め、働き方改革を推進し、業務のスリム化を図る。 ②実践的な防災教育を教育課程の一環として定着させ、地域とも連携した防災力を向上させる。	①職員のTeams等のICT機器活用を促進し、業務のスリム化を図る。 ②平塚市災害対策課の協力を得て、防災講演会および訓練体験やDING(災害図上訓練)の実施および情報発信。	①職員の時間外勤務を減らすことができたか。ストレスチェックの結果が良好であると判断できるか。 ②防災訓練の実施状況はどうだったか。また、訓練および講演会への参加状況。	①Teams等のICT機器活用を促進することで職員間の情報の共有化が促進され、業務のスリム化を図られた。 ②8月末に防災避難訓練を実施。1月に津波防災訓練・DINGを実施する。	①ICT機器の活用には、個人間で技量の差が出るため、研修等の実施が必要である。 ②訓練として余震や災害の状況に応じた対応を検討していく必要性を感じている。	①ICT機器に関しては個人間で技量の差が出るのは大いに理解できる。今後も研修等でその差を縮めてほしい。 ②大規模震災は避けては通れない。日ごろからの防災意識が重要である。	①Teamsの活用は浸透し、日常業務の在り方に大きな変化を生み、効果を発揮している。他校の実践例から学ぶ研修等の開催が課題である。 ②津波防災訓練やDINGを実施し、防災意識の向上につながった。今後は、起こるであろう震災に向けての日常的な防災意識の醸成と家庭内の防災用具の見直しが課題である。	①TeamsやClassRoomの活用方法などを他校の職員と情報交換を積極的に行うことや、実践例を模索し、業務改善に用いることのできる情報を集め必要がある。 ②近年に発生した震災などを振り返り、日常生活内で発生した場合の初動を考える場を設けることや、季節によって必要になる防災用具などについて考える内容などを組み込む。